

令和元年度第2回茅ヶ崎ゆかりの人物館運営委員会

議題	1 令和元年度前期企画展の開催状況について 2 令和元年度後期企画展の開催状況について 3 答申案について 4 令和2年度前期企画展について 5 その他 ・博学連携について
日時	令和2年2月4日(火) 午前10時00分から12時20分まで
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階F会議室
出席者氏名	【運営委員】 (委員長) 伊藤隆治 (副委員長) 杉山貴子 (委員) 須藤亮、坪田稔、井上由佳、小川稔、長谷川由美、森浩章 【事務局】 (文化生涯学習課) 村上穰介文化生涯学習部長、関山知子文化生涯学習課長、 高橋知担当主査、加藤広樹副主査、渡邊陽太主事、 平山孝通非常勤嘱託職員 (ゆかりの人物館運営嘱託員) 平井宏典
欠席者氏名	
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0人
非公開の理由	

○伊藤委員：まず議事録の署名委員について、よろしければ今回は長谷川委員にお願いしたいと思えます。よろしいでしょうか。

○長谷川委員：はい。

○伊藤委員：ありがとうございます。よろしくお願いたします。

【議題1 令和元年度前期企画展の開催状況について】

○事務局：資料3をお手元にご用意ください。令和元年度前期企画展の開催状況について説明します。会期、内容についてはこちらに記載したとおりです。構成といたしましては、第一部は登山家槇の功績を伝え、第二部は槇の素顔といたしまして、登山家でありながら文筆家として活躍した槇氏を紹介しております。展示風景につきましては、報告書をご確認ください。企画展の特徴といたしましては、一つ目、槇氏の親族より借用した約80点の資料を展示いたしました。二つ目、山をテーマにした関連展示を開催し、4月からは写真家の高橋氏、協力のもと『山と関わり続ける』、8月からは低山トラベラー大内氏監修、株式会社モンベル協力のもと『自然を楽しむ山と道具展』を開催しました。三つ目、市職員

によるギャラリートークの開催を前期の企画展から開催しました。前期イベント等実績につきましては、報告書のとおり14のイベントを開催いたしました。次に茅ヶ崎ゆかりの人物館、茅ヶ崎市開高健記念館の来館者数の推移について報告します。前期の人物館の来館者数は1,238名、開高健記念館が1,463名の来館がございました。なお、報告書には平成28年度から各施設が開催した、企画展名を記載しています。その他、新しい取り組みといたしまして、10月から12月まで、ゆかりの人物館のラウンジを利用したミニギャラリーを開催しました、ミニギャラリーの展示は前期の槇氏に関する展示をしました。続きまして、広報実績につきましては、7月の運営委員会においてご報告させていただきましたので、ご確認をお願いします。アンケートの結果につきましては、1238名の来館があり、アンケート回収枚数は60枚でした。合わせて、アンケート集計表をご確認ください。令和元年前期のアンケート結果では、10代から50代の方が同程度の人数来館いただいております。また、来館のための方法につきましては、徒歩と回答された方が41パーセントだったことから、近隣の方が多くいらっやったことがわかります。事務局からは以上です。

○坪田委員：今後このアンケートをどのように活用していくかが大事だと思います、イベントの内容などをアンケートで集計する必要があるのではないのでしょうか。

○伊藤委員：アンケートの集計と活用について、今後有効活用いただけますか。

○事務局：はい。

○杉山委員：文化生涯学習課として今回の企画の状況についてどのように考えていますか。

○事務局：借用したものを目録として資料にできました。槇有恒氏を知らなかった市民へ茅ヶ崎ゆかりの人物を紹介できたことも、ゆかりの人物館の役割を担えたと考えています。

○杉山委員：入場者の目標数は設定し、結果をどのように考えていますか。

○事務局：来館者数は今までで一番少なく、開高健企画展も同程度の推移になっています。コンテンツだけの問題ではなく、今後はどのように周知していくかがポイントになります。今後の企画展では、今までとは違う広報をしていこうと考えています。目標を設定しにくいですが、過去の来館者数の推移などからおおよそ2,000人程度と考えます。

○杉山委員：ありがとうございます。人数だけでは測れないこともわかります、広報等を検討していただければ幸いです。

○須藤委員：29年2枚看板で来場者多かったです。今回は、新たに槇氏を発掘していただき、目録を作成することができたとありました。その目録の実績は、市民に伝えることも必要だと思います。

○事務局：ありがとうございます。知られていなかった人物を紹介するものゆかりの人物館の使命です。年に2回のうち1回の企画展では、あまり市民の方に知られてはいないような人物やグループを紹介したいと考えています。

○坪田委員：年齢層は高齢層が多く、若年層が少ないので、若い方にSNSで発信してもらうことも大事ではないかと思えます。

○森委員：以前の運営委員会で各学校に茅ヶ崎ゆかりの人物館のチラシを配るとしていましたが、どうなっていますか。

○事務局：市立の小、中学校の全生徒に配布を行いました。

○森委員：生徒たちの手元に届くようにすることが大切です。

○事務局（高橋担当主査）：全児童に配布できるように学校へ配布依頼を行っております。また、後期の企画展でもご紹介させていただきますが、学校と協力し授業を作るといった連携も始まっており、学校との協力という意味では少しずつではありますが成果が出てきていると考えております。一方で、児童、

生徒にゆかりの人物館を利用してもらうという意味では、チラシを配布するだけでなく、児童生徒向けのチラシの作成や、学びやすくなる教材を作成するなど必要と考えています。

○森委員：開館日が現在、金、土、日、祝日となっており、1回の企画展で約80日程度の開館日だと思います。施設が開設して、5年が経過しますが、開館日についての検討が行われていますか。

○事務局（高橋担当主査）：開館日については様々なご意見をいただいています。茅ヶ崎ゆかりの人物館は第一種低層地域に位置しており、住宅街の中で、開館日を増やし来館者を呼び込むことは制度上難しい部分がございます。ただし、より多くの方に施設を利用してもらうというためには、休館中の有効活用も考えています。例えば、茅ヶ崎ゆかりの人物館のボランティアなどを募り、施設で勉強会や研究をしてもらう、といった利用の方法もあると思います。現行では開館中、閉館中の施設をどのように利用していくかという形で整理できればと検討しております。

○須藤委員：定量的には、報告書にあるように来館者数などで、評価がされます。それに対しては、人によって評価が高かったり、低かったりとあるかと思います。ただし、必要なのは定性的な視点だと思います。例えば今回では資料の収集ができ、目録の作成ができたとありました、または本企画についてこういった意見があったなどです。現状ではそういった蓄積や、公開はないのでしょうか。

○事務局（高橋担当主査）：当施設は収蔵庫のない博物館であり、委員の発言にもあるように、資料などの蓄積といった定量的には計ることができない要素が大切だと考えます、今後はそれらの蓄積、または発信なども積極的に行っていきたいと考えております。

○坪田委員：須藤委員の発言のとおり、定性的なものの蓄積として、例えばイベント内容の満足度などについて項目を作成する必要があるかと思います。

○事務局：アンケートの内容については検討いたします。

○杉山委員：チラシが大人用なので、小学生では漢字が難しく読めない場合もあると思います。タウンニュースが子どもタウンニュースを作成しており、こちらに施設の情報などを掲載してもらえるかどうか、調整するのも良いのではないのでしょうか。

○伊藤委員：来館者数を増やすためには有名人を取り上げる、といった方法もあると思いますが、ゆかりの人物館としては、知られていない方を取り上げて財産である人物を紹介していくということが大切だと思います。多くの方に来場いただくためには、広報が重要になってきます。現状、ゆかりの人物館では広報が弱いと思いますので、広報のあり方を積極的に考えてみていただければと思います。また、前回の企画展で私が感じたのはギャラリートークについてです。これは、とても良かったと思います。ゆかりの人物を理解しようとしても、自分だけでは限界があります、そこで学芸員の方が案内してくれることで、とても理解しやすくなりました。こういった取り組みによって紹介している人物だけではなく、人物館の位置づけも変わってくると思います。ただし、職員の方は全て出勤するのは難しいと思うので、例えばボランティアスタッフなどの協力体制を作り活用していくことが重要だと思います。また、金、土、日、祝日のみの開館ではあるが、その部分を強みにすることができないのでしょうか。

○須藤委員：伊藤委員の意見にもあったボランティアスタッフの協力体制に関連して、例えば広報にのみ力を入れた協力体制を作ってみたらいかがでしょうか。良いアイデアができると思います。

○森委員：人物館に関する良い会議をもっとやった方が良いと思います、座談会やブレストなどのイメージです。各自自治体が同様の課題を抱えるなかで、小田原は、課の垣根を越えて事業を実施しています。施設内にて販売することに課題もあると思いますが、例えば産業振興課を巻き込むことによって物販が可能になる、ということもあるのではないのでしょうか。

○須藤委員：文化的な資本がどれだけ蓄積されているか、そういったことも町の魅力になり、愛着が持

てる町に繋がっていくと思います。昨今、予算が減額され運営等が難しくなる場合もあると思いますが、茅ヶ崎市には文化施設の運営を守って欲しいと思います。

○森委員：小田原の清閑亭という成功している文化施設があります。建物の雰囲気もよく、施設内には喫茶などがあり賑わいがあります。そういった事例を参考にさせていただければと思います。

○関山課長：市全体の予算は厳しい状況にあります。当課といたしましては、必要性を伝え必要な予算は引き続き確保したいと考えております。また、財源の確保として市の予算だけで運営するのではなく、国、県、民間事業者などから必要な予算を確保することも検討したいと考えています。そうした中で、市民の方や民間事業者を巻き込みながら、ゆかりの人物館の定性的な価値付けを行っていきたいと考えております。

○井上委員：施設の知名度というのが根幹的な問題にあるのだと思います。例えば研修会で施設を活用していただき、施設を知っていただくという手法もあるかと思います。学校の先生には授業で利用できるかもしれない、市の職員であれば自分の業務に利用できるかもしれない、といった形で興味、関心が生まれるのではないのでしょうか。そういったところから、知名度が上がる可能性があります。アンケート結果を見ていると内容が良いので、来ていただき、知っていただくといった取り組みが必要だと思います。

○事務局（高橋担当主査）：この後、後期のご説明をさせていただきますが、バスツアーを新たに展開しております。参加者からは施設が遠く、来館を希望していたが、なかなか来れなかったが来てみるとよかった。今度もまた来たいという意見がありました。井上委員の意見のとおり、実体験の重要性は感じておりますので、今後とも様々な事業を展開していきます。

【議題2 令和元年度後期企画展の開催状況について】

○事務局：資料4の報告を行います。共同企画展漂えど沈まず、開高健の生き方といたしまして、隣接する茅ヶ崎市開高健記念館と開催しております。茅ヶ崎ゆかりの人物館では、開高家の人々、妻牧羊子、娘開高道子といたしまして、開催しております。会期、内容につきましては、報告書をご確認ください。構成につきましては、第一部開高健と妻、牧羊子、娘開高道子といたしまして、妻と娘の作品の中にある、開高健の姿を紹介しております。第二部は開高健のこだわりの品々といたしまして、開高健が利用していたものや、寿屋社員時代に交流のあった友人との品々を通じて開高健を紹介しております。次に展示風景につきましては、報告書をご確認ください。特徴といたしましては、約130点の資料を展示しています。共同企画展としまして、人物の紹介をゆかりの人物館で、文学的要素の紹介を開高健記念館にて行っております。関連企画といたしまして、ゆかりの人物館の多目的ホールにて茅ヶ崎市開高健記念館で開催した歴代企画展のポスターを掲出してしております。次に後期のイベントの開催状況についてです。後期のイベントの開催数は予定を含めて25回となっております。次に来館者数の推移についてです、12月28日時点での数値になります、ゆかりの人物館には497名、開高健記念館には612名の来館がございました。その他、新しい取り組みの紹介をいたします。回遊性の確保といたしまして、バスツアーの実施と、レンタサイクルの設置を行いました。また、学校と協力し出張授業を行いました。2020年1月10日に鶴嶺小学校の総合的な学習の授業に市の職員が講師として伺い、ゆかりの人物の紹介を行いました。この取り組みは紹介した人物の中から生徒が研究したい人物を選び、各人で人物の調査を行い、その後フィールドワークを実施するという内容のものです。フィールドワークは2月13日に予定しております。次に茅ヶ崎小学校の放課後子ども教室、茅ヶ子への協力といたしまして、2月中旬以降に教室に伺い、ゆかりの人物を紹介することを行う予定です。広報の実績につきましては、報告書をご確認ください。アンケートの結果につきましては、他の企画展と異なる点といたしましては、

市外からの来館が多い企画展でございました。その他のアンケートの意見につきましては、参考にご確認ください。

○井上委員：鶴嶺小学校は何年生ですか。

○事務局：5年生の5クラス160名になります。

○杉山委員：鶴嶺小学校は協力要請があったのか、または行政からお声がけしたのでしょうか。

○事務局：双方からという形であったと思います。先生の勉強会がしたいと話があり、そこで行政からできることを提案させていただきました。そうした形で授業協力をすることができました。

○杉山委員：職員、教員の研修にゆかりの人物館を利用するという井上委員の意見がございましたが、人と人とのつながりで、できていくと思いますので、引き続き取り組んでいただければと思います。子ども達が興味を持って、自分で調べて、自分のものにしていくというのは良いことだと思います。学校の数も増えていけばよいと思います。

○井上委員：子供たちの成果物を展示してはいかがでしょうか。

○長谷川委員：18名を紹介したが、誰に興味が集まったのでしょうか。

○事務局（高橋担当主査）：説明の補足です。今回の学校の5年生の学年テーマが、ヒーローでした。自分のまわりの身近なヒーローを探そうというのがございまして、そのヒーローにゆかりの場所を見に行こうということがありました。ゆかりの場所としては、美術館や図書館といった資料がある場所です、18名を紹介しました。また、開催にあたって図書館や美術館の職員にもご協力をいただきました。

○事務局：生徒に紹介したのは、ピストン堀口、市川団十郎、木村義雄、小津安二郎、原安三郎、山田耕筰、川上音二郎、貞奴、八木重吉、萬鉄五郎、小山敬三、井上侑一、高田畊安、国木田独歩、小山敬三、平塚らいてう、開高健、ルドルフ・ラチエンの18名でなかでもピストン堀口氏が人気でした。

○長谷川委員：生徒は自分で選んだ方を調べたあと、ゆかりの人物館に来るのでしょうか。

○事務局：開高健、ルドルフ・ラチエンを選んだ生徒は、ゆかりの人物館にフィールドワークで来館します。

○長谷川委員：学校連携の授業はすごく良い取り組みで、他の学校にも広がればいいな、と思います。また、ピストン堀口さんに人気が集まったとのことでしたが、そういった興味があるところから企画が生まれれば良いと思います。次に、バスツアーについてですが、良い企画だと思います。実はこれが始まる前に私どもの文化団体協議会で似た企画を開催し、ゆかりの人物館や美術館に会場し、美術館で食事をする内容で、参加費として観覧料、食事代含めて3,000円を徴収しましたが、募集人数を超える応募がありました。報告いただいたバスツアーは無料だと思いますが、ここまでやったのであれば、参加費を徴収してもよいのではないのでしょうか。

○事務局：観覧料だけお支払いいただいております、そういったことも可能か今後検討します。

○長谷川委員：先ほど産業振興課などと連携し事業を展開できないか、という意見がありましたが、例えばエメロードの商店ではエメロードを案内して、お店でお買い物をしていただくといった企画をしていると伺いました。このバスツアーにもお買い物の場所を巡るといった内容のものを盛り込むことはできますか。

○事務局：手法の問題があるかと思いますが、確認いたします。

○須藤委員：情報提供ですが、ピストン堀口とオリンピックというテーマでギャラリートークがあります。次年度の後期の企画展になりますが、このギャラリートークの方をお呼びしてイベントを開催するのも良いと思います。

○長谷川委員：イベントの実施予定についてですが、小津安二郎監督の映画はどういった位置付けで開催するのでしょうか。

○事務局（高橋担当主査）：これまでの多目的館のイベントは企画展示と関連する内容で行ってまいりました。しかし、入館者数の減少や、多目的館の利用方法、人物館の使命を考えたときに、多くのゆかりの人物を発信する必要があり、そういったアプローチも必要だと考え、今回はゆかりの映画監督作品の上映を行うこととしました。今後は様々な方々のミニ展示や企画を開催しようと思います。

○長谷川委員：非常に良い取り組みだと思います。110名もゆかりの人物がいらっしゃるので、様々な方法で発信を行うことは重要だと思います。また、先ほどの意見でもありましたが、市民の方に入っただけで、様々な企画が可能であり、集客にも繋がると思います。

○杉山委員：メール配信サービスでの広報もイベントごとに発信したら良いかと思います。活用いただければと思います。

○長谷川委員：フェイスブックが少しゆっくりだと思います。アンケートの結果からもインターネットで情報を収集されていらっしゃる方が多いので、活用いただければと思います。また、ゆかりの人物館では撮影の許可をしているものがないのですが、撮影を許可して SNS で拡散していただくといった広報戦略もあるかと思います。展示物によって撮影できるもの、できないものがあるかと思いますが、検討していただければと思います。

○伊藤委員：事務局にて検討をお願いいたします。他に意見がないようであれば、次の議題に移ります。議題3、議題4につきましては関連がありますので、事務局より一括で報告してください。

【議題3 答申案について】

【議題4 令和2年度前期の企画展について】

○事務局：答申案について報告します。1ページには伊藤委員長からの企画展示についてのコメントを掲載させていただいております。2ページ目以降に各委員からいただきました、意見をまとめております。それでは資料5答申（案）を読み上げます。

【資料5答申（案）読み上げ】

○事務局：答申については以上でございます。後期の企画展のその他部分について小川委員より情報提供をいただきたいと思っております。

○小川委員：1964年のオリンピックのポスターについてです。ご紹介したいのが、村越襄氏です。彼は茅ヶ崎市東海岸に在住しておりました。彼は亀倉雄策氏が監修したポスターのうち、第2号スタートダッシュ、第3号バタフライの作成に関わりました。当時、商業ポスターにカラー写真を使い、写真のイメージを持ってオリンピックをアピールするという大変大胆な手法でした。作成するのに大変苦労されたと同っています。今回1964年の東京オリンピックをテーマの一部にするとのことで、こちらを紹介させていただきました。

○事務局：続きまして、議題4の説明をさせていただきます。企画展の会期、概要については資料6のとおりです。展示内容は、第一部が営みとしての海といたしまして、古代の人の海での生活や、江戸時代の海での生業など時代を追って紹介させていただきます。第二部では楽しみとしての海といたしまして、ビーチタウンの茅ヶ崎を紹介し、その風土のなかで生まれた音楽やマリンスポーツの文化、そしてオリンピック種目になったサーフィンの紹介と、茅ヶ崎出身のサーフィン選手のオリンピック候補の紹介を考えております。また、関連といたしまして、多目的館でホストタウン相手国の北マケドニア共和国の関連展示を開催します。第一部のご説明させていただきます。海と人を大きなテーマとしておりまして、展示は海を巡る歴史といったイメージです。海をみれば烏帽子岩が見れますので、まずは烏帽子

岩の紹介をしたいと考えております。烏帽子岩のまわりで行われていた漁、過去に鳥居があったことなどを展示します。次に茅ヶ崎の海岸線についてです。茅ヶ崎は昔、海に浸かっていた、堤に貝塚があることから、そこまで海に浸かっていたことがわかります。その比較も展示いたします。次に、現在のラチエン通り、郷境道が設定された様子を紹介します。江戸時代の後期、幕末から明治初期に活躍する藤間柳庵を紹介します。また、平塚の馬入、茅ヶ崎の柳島にあった柳島湊、茅ヶ崎の鉄砲場、土地の方から義民と呼ばれた佐々木卯之助を紹介します。次は近代の紹介です。明治31年に茅ヶ崎に駅ができたころの漁師の様子がわかる物品の展示を行うほか、海水浴場として盛んだった茅ヶ崎海岸の様子を写真でご紹介させていただきます。写真のなかでは子どもたちが洗濯板などで遊んでいた様子などがわかります。茅ヶ崎館さんにありますロングボードの写真もご紹介させていただきます。この部分は森委員に教えていただければと思います。

○森委員：茅ヶ崎館にあるボードは2.8メートルぐらいです。多分この板はハワイのコアウッドでできていると思います。波乗り板と呼ばれています、写真は昭和10年代ごろの様子を紹介するものです。日本でのサーフィン発祥の地は1950年代ごろとの話がありますが、その時代よりも遡ります。板に立ち、波乗りをした初めての場所ということが言えるかもしれません。ただし、子どもたちが洗濯板で遊んでいた様子からも、どこからが波乗り板で、どこからがサーフィンか明確にわかるのは難しいでしょう。

○事務局：ありがとうございます。第2部のご説明をさせていただきます。第二部は楽しみとしての海としまして、ビーチタウン茅ヶ崎を紹介し、マリンスポーツ、今大会でオリンピック種目になりました、サーフィンの紹介とそれらにまつわるゆかりの人物の紹介を行います。次に東京2020大会のホストタウンである北マケドニア共和国の企画展示を多目的館で行います。北マケドニア共和国の展示内容としましては、文化、地理、民族、言語を紹介させていただくとともに、関係者の方から民族衣装や工芸品を借用できておりますので、それらを展示します。次にチラシの説明をさせていただきます。茅ヶ崎の海のシンボルで烏帽子岩を刻まれた印象的なチラシになっております。今回は印象深く、手に取ってもらえるようなものにしております。裏面については、協力者などの不確定事項もあることから、多少の変更もあり、文章量が増える予定です。

○伊藤委員：ご報告いただいた案件につきまして、ご質問、ご意見があればよろしくお願ひします。

○長谷川委員：答申3ページ展示内容について。一般来館者が多い市役所ロビーで開催する。という部分はこういった意味でしょうか。

○坪田委員：北マケドニア共和国の紹介展示を、多目的館ではなく、多くの方に見ていただける市民ロビーで開催したらよいのではないかと、という意味です。

○事務局：オリンピックのホストタウンに関係する展示を庁舎等でも行い、広く市民にアピールする必要があるといった意味合いです。市役所東側入り口部分にコミュニケーションウォールという展示スペースができて、2月よりこちらでもオリンピック関係の展示を開催しており、そのなかで北マケドニア共和国の展示も行っております。そういった意味ではゆかりの人物館以外の施設でも展示は行われています。

○長谷川委員：書き方を変更した方がよいと思います。また、今回の企画展示はとても面白い内容だと思います。それらをチラシに入れ込むのがとても大変だと思いますが、チラシの中にイベントなどを入れ込んで、皆さんにお知らせできればもっと良いと思います。

○伊藤委員：はい、ありがとうございます。事務局に質問です。今回の企画展示の名前は確定でなければ、茅ヶ崎をテーマ名に入れてみてはいかがでしょうか。茅ヶ崎を入れた方が茅ヶ崎の海といったイメ

ージになるかと思えます。いかがでしょうか。

○事務局：今回はテーマ展ですので、茅ヶ崎ゆかりの人物館にて開催するにあたり、人を強く出す必要を感じました。ただし、委員がおっしゃるとおり、茅ヶ崎の海が重要であることも確かですので、「茅ヶ崎と海、ひととスポーツ」という名称にて開催したいと思えます。

○伊藤委員：はい、ありがとうございます。他にご意見はございますでしょうか。それでは答申への意見は反映させ事務局で修正を行ってください。

【議題5 その他】

○事務局：博学連携について、取り組みをご紹介させていただきます。鶴嶺小学校との授業の組み立て、茅ヶ崎小学校の小学校ふれあいプラザ茅や子への出張授業などを行う予定です。

委員長署名 伊藤隆治 _____

委員署名 長谷川由美 _____